

そわにえ
Soigner



第15号

「Soigner (ソワニエ)」とは、「世話をする・手当てする」という意味のフランス語です。

2008年10月15日発行

発行/東京訪問看護ステーション協議会 (責任者 森山弘子)
〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町4-17
社団法人東京都看護協会内
TEL : 03-5229-1534・1520 / FAX : 03-5229-1524

INDEX /	My Boom.....⑤
さんぽみち.....①	委員会報告.....⑥
厚生労働省って.....②	Welcome.....⑦
ステーション紹介.....④	編集後記他.....⑧



「罽雲」和歌山県・高野山大門にて 横田喜久恵さん撮影

さわやかな風

元新宿訪問看護ステーション所長 横田喜久恵



爽やかな秋となりましたが、今年はことのほか猛暑で、一軒一軒の訪問は体力勝負、本当にご苦労様でした。

私は今から6年前の2002年9月まで10年近く、都心にある訪問看護ステーションの所長をしておりました。そして現在は、訪問看護師として仕事をしていた立場から、老人をかかえる家族の立場で訪問看護の有難さ大切さを感じております。

2006年春、当時88歳だった義母のことが心配でしたが、還暦を機に、和歌山県の高野山にある高野山大学のスピリチュアルケア学科3回生に社会人入学しました。義母のことは、健康管理と家事援助サービスをお願いすれば日中は何とか一人で生活することができると考え、早速介護保険サービスを申請しましたところ、要支援1と判定されました。当時元気な義母は他者の訪問に気を使うとって消極的でしたが、訪問看護師とヘルパーさんは義母の気持ちを心得て対応をして下さり、すっかり馴染み、訪問して下さるのを楽しみにするようになりました。お蔭様で、私はケアマ

ネージャーと二人の方々の応援を受け、安心して大学生活を送ることが出来ました。

しかし、今年90歳を迎えた義母は、私が卒業するのを待つように、3月家の中で転倒し右肩関節を脱臼してしまいました。それで、それまで何とかできていた生活が一変し、今度は要介護3と認定されました。現在、義母の話し相手をしながら、朝の身支度に始まって三度の食事、洗濯、掃除、買い物、入浴介助と毎日があっという間に過ぎてゆきます。

そんな中、健康管理や異常の早期発見はもちろんですが、単調な生活にあたらしい風を運んでくださるのは訪問看護師さんやホームヘルパーさんです。このさわやかな風が義母にとって、とても新鮮に感じられるようです。安心してお任せできる家族以外の支援者がいることが、在宅介護を長続きさせるのではないかと思います。これからもデイサービス、そしてショートステイも受けながら、在宅介護をする家族の立場をじっくり体験してゆくつもりです。そしてあらためて在宅支援とは何か今までの反省を含め考えてまいりたいと思います。

